

企画提案試験 講義編

第1節 企画提案試験の概要

…企画力、建設的な思考力及び説明力などを判定するための試験（配点：5／28）

毎年、教養区分第1次試験合格発表日に人事院ホームページにて、参考文献や資料等が提示されるので、事前にそれらを読み、内容を十分理解した上で試験に臨む必要がある。

（参考）・2012年：「ものづくり白書」（全文）

・2013年：「H25年版男女共同参画白書」（全文）

・2014年：「平成26年度版 子ども・若者白書」（全文）

・2015年：「平成27年度版 高齢社会白書」（全文）

・2016年：①「平成28年度版 観光白書」（全文）

②「Global Code of Ethics for Tourism」World Tourism Organization (UNWTO)

・2017年：①「平成28年版 厚生労働白書」（第1部）

②「平成28年版 労働経済の分析」（全文）

③「Replacement Migration」(国連事務局経済社会局人口部 DESA)

・2018年：「平成29年度 経済財政白書」（第1章）

・2019年：「平成29年度 文部科学白書」（第1部）

・2020年：「平成30年版 厚生労働白書」

（第1部：障害や病気などに向き合い、全ての人が活躍できる社会に）

・2021年：①「国土強靱化進めよう！」（令和3年3月版）

②「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策（概要）」

③「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策の対策例」

・2022年：①『令和4年版 子ども・若者白書』第3章第2節1「若年無業者、ひきこもり、不登校の子ども・若者の支援等」

②『令和元年版 子ども・若者白書』特集2「長期化するひきこもりの実態」

③『令和3年版 高齢社会白書』第1章第1節3「健康意識及び友人・知人との交流について」

・2023年：①『令和5年版情報通信白書』第2章第3節「インターネット上での偽・誤情報の拡散等」

②『令和3年版情報通信白書』第2章補論「コロナ禍における情報流通」

③『総務省プラットフォームサービスに関する研究会最終報告書』

（別紙を除く）

★Ⅰ部：政策概要説明紙（プレゼンテーションシート）

従来の「小論文」に代わり、2022 年から導入されたもので、**1 時間 30 分の時間内で A4 両面 1 枚に、箇条書きや図、表を用いるなど自由な形式で政策の内容を分かりやすくまとめる**。解答時間は 30 分短縮されたものの、これまでと同様、試験当日に課題と資料を与えた上で、政策を提案させる形式は踏襲されている。

★Ⅱ部：プレゼンテーション及び質疑応答

Ⅰ部で書いたプレゼンテーションシートの内容について試験官（2 名）に説明、その後質疑応答を受ける。（発表時間 5 分間、質疑応答：概ね 20 分間）

課題紙及び参考資料は、Ⅰ部終了時に回収するが、Ⅱ部の発表に当たり、準備時間（10 分間）を考慮して、政策概要説明紙のコピーとともに手渡される。なお、Ⅱ部終了時に、これらは回収される。

（当日のイメージ）

① 午前中、プレゼンテーションシート作成（1.5 時間）

② 昼食休憩

・この試験は、昼食時間の後に 1 列ずつ面接室に呼ばれてプレゼン＆質疑応答を行う形式をとっているが、1 列あたり準備時間 10 分、個別発表・質疑応答合わせて 25 分の合計 35 分程度を要する。しかもその間、控室では外出は当然のことだが、読書・携帯・雑談さえも禁止であるため（水分補給も許可がいる）、コロナ禍以前の頃には、後列になった受験者は最悪 3 時間以上何もせずただひたすら待機する羽目になったこともあった（待機時における不自由さという点では、待機時間がやたら長い官庁訪問よりもひどい…）。

③別室で資料が返され、10 分間の準備時間（みんなメモしたりしていた）

④面接官 2 人相手に、プレゼン＆質疑応答開始

プレゼン（5 分）→質疑応答（20 分）

説明は 5 分以内厳守であるものの、大きいタイマーが置いてあるため、事前に何度か練習をしていれば焦ることもない。

✧ 評価について

・素点（12 点満点）に対して、基準点（4 点）未満は「足切り」となる。また、平均点は 6 点前後。
・素点が小さいので標準偏差も当然小さくなるものの、素点が同程度の春試験向け政策論文（素点 10 点）が 1.3 台で推移しているのに対し、企画提案試験は 2 点台になることも多く、準備対策の有無が点数の差につながりやすい。